

炭水車(後ろ側)

蒸気機関車の運転に必要な、石炭と水を積む車両で、**炭水車**といいます。炭水車の構成としては、組み立てた台枠の上に、控板で仕切られた水槽と、さらに水槽の上には石炭を乗せる石炭庫があります。



炭水車形式板

D51の炭水車は、石炭8トン、水20トンを積む「8-20B」という形式が、一般的に使われています。

「B」というのは、設計(改造)順を表すアルファベットです。8-20Aと8-20Bの違いとは、8-20Aは一体鋳物で製造され、台車に揺れ枕が付いているのに比べ、8-20Bは、鋳物と板の組み立て式で、台車の揺れ枕が省略されています。また他には、戦時中、10-20炭水車というのも製造されましたが、8-20式と比べ、台枠の代わりに底を厚くし、船の底に似た舟底型、の炭水車もありました。

…しかし…、
本来は、炭水車のナンバープレートの下中央に、①炭水車の形式を表す型式版があるはずなのですが、無くなってしまっていますね…。(⇒p44「ナンバープレート」)

後照灯

②後照灯…形式は不明ですが、黄色く光っていることから、小糸製作所のゴールドングロー前照灯でしょうか？(⇒p43「前照灯」)

※ゴールドングローライト…小糸製作所が発明したライトで、見た目黄色のライト。初期のライトにはウランも使われていたとか。昭和16年にウランが入手できなくなってからは、代わりに重クロム酸カリウムによって黄色に着色されるようになったが、短い波長がカットされるので、すれ違い時の幻惑が低減されるばかりか、雨や霧を透過する性質もありました。

もし、この PDF の内容が良かった、と思われた方は、
ぜひ、『D51688 号パーフェクトブック』をお買い上げください。
1 冊 2000 円(フルカラー54 ページ)です。

ちょっとお高いですが、全てフルカラーの写真を入れたら、こうなってしまう
した。

なお、パーフェクトブックの売上金は、D51688 号保存協力会の、研修費用等に
充てられます。

パーフェクトブックが現在販売されている場所は、
岡崎市南公園 交通広場、管理棟の 1 階窓口(木曜日は休園日)です。
または、月 1 回の管理清掃が行われているときに、清掃を行っている、保存協力
会員にお問い合わせをしていただいても結構です。

D51688 号機は、現在、愛知県岡崎市にある、岡崎市南公園 交通広場で、
静態展示が行われています。

もちろん、(休園日でも)柵の外からは、いつでも見ることは出来ますが、
月 1 度、第 2 日曜日の 9:00~11:00 の間に、管理清掃のために、柵が開けられま
すので、より近くで見ることが出来ますし、運転席内に入ることも出来ます。

南公園に来られた際のお土産としても「D51688 号パーフェクトブック」を、
ぜひ、どうぞ♪

※ぜひ、D51688 号に会いに来ていただきたいのですが、どうしても無理で、
パーフェクトブックを買っても良いよ、という方は、以下のメールでも受け付
けています(別途、送料・手数料がかかる場合があります)。

販売代行窓口：d51688-pb@azutelier.jp

このファイルを改変すること(特にこのページを切り離すこと)を禁じます。

©加藤あずき / D51688 号蒸気機関車保存協力会